高松市美術館特別展
大阪市立東洋陶磁美術館所蔵
堀尾幹雄コレクション

濱田庄司展

The Horio Mikio Collection in
The Museum of
Oriental Ceramics, Osaka

2021.11.13(土)—12.19(日)

休館日｜月曜日
開館時間｜午前9時30分～午後5時
（入室は閉館30分前まで）
※ただし金曜日・土曜日は午後7時閉館
主催｜高松市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
特別協力｜大阪市立東洋陶磁美術館
協賛｜ライオン、DNP大日本印刷、損保ジャパン
観覧料｜【一般】1,000円（800円）※65歳以上も一般料金、
【大学生】500円（400円）、【高校生以下】無料
※（ ）内は20名以上の団体料金
※身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳所持者は無料
※本料金で「濱田庄司展」、「中村裕太展」及び「常設展」もご覧いただけます。

Sat., November 13–Sun., December 19, 2021
Closed Monday
Hours: 9:30-17:00 (Entry until 16:30)/
Friday & Saturday 9:30-19:00 (Entry until 18:30)

高松市美術館
Takamatsu Art Museum

《掛分指描 土瓶》 1949年
大阪市立東洋陶磁美術館蔵（堀尾幹雄氏寄贈）
撮影｜加藤成文

高松市美術館特別展
大阪市立東洋陶磁美術館所蔵
堀尾幹雄コレクション

濱田庄司展

濱田庄司（1894-1978）は1924年に栃木県益子に拠点を置き、沖縄や英国などの工芸を吸収しながら、作品を展開していきました。また、柳宗悦（1889-1961）や河井寛次郎（1890-1966）らとともに民藝運動を推進し、自身の作陶においても、実用性を重視した作品を手仕事により数多く生み出しました。シンプルで重みのある形に大胆かつ軽やかな釉掛けが施された作品には、個人作家としての濱田の個性が見られます。それらの作品は高い評価を受け、1955年に第1回重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定されました。

1《刷毛目 茶碗》 1935年

2《塩釉絵刷毛目 扁壺》 1966年頃

3
《赤絵 角瓶》
1956年頃

本展では、大阪市立東洋陶磁美術館が所蔵する堀尾幹雄コレクションから約150点の作品を展示します。堀尾幹雄氏（1911-2005）は濱田と親交を深めながら、日常で使うことを念頭において作品を収集したコレクターです。そのコレクションには、濱田のトレードマークである糖黍文を配した《塩釉絵刷毛目扁壺》や濱田が得意とした「掛分指描」による《掛分指描 大鉢》など、濱田作品の特徴を示したものが多く含まれています。なかでも50点を超える茶碗は、濱田の喜寿の記念展覧会に併せて出版された『濱田庄司七十七盌譜』の巻頭を飾った《刷毛目 茶碗》などの代表作を含む重要な作品群です※。また本展では、バーナード・リーチ（1887-1979）や河井寛次郎、芹澤銈介（1895-1984）、棟方志功（1903-1975）、黒田辰秋（1904-1982）ら、濱田と交友のあった作家の作品も紹介します。濱田がさまざまな経験をしながら深く作陶に向き合い、暮らしに寄り添って制作した作品の数々をご覧ください。

※本展では、このうち44点を展示します

4《掛分指描 大鉢》 1943年

5《白釉黒流描 大鉢》 制作年不明

7《青釉白黒流描 大鉢》 1951年頃

6《柿釉抜絵 角皿》 1950年

8《塩釉櫛目色差 茶碗》 1961年

1～8は大阪市立東洋陶磁美術館蔵（堀尾幹雄氏寄贈）
撮影：加藤成文

今日、濱田庄司の仕事は、